

地域づくりセミナー 第3回

「人口が減っても元気なまちでありつづけるために」

～「元気であり続けるまちにするために」～

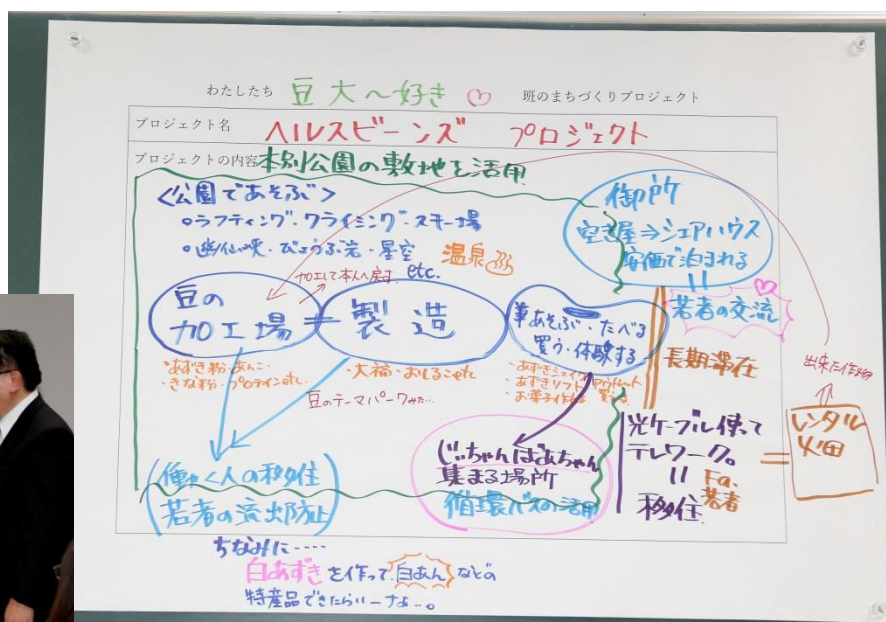
令和元年 12月4日 18:00～21:00

本別町体育館 2階中競技室

『豆大～好き♡』班の討議発表（発表者：寺島 康博さん）

メンバー

寺島 康博 さん
井出 直美 さん
飛田 真喜子 さん
鈴木 譲 さん

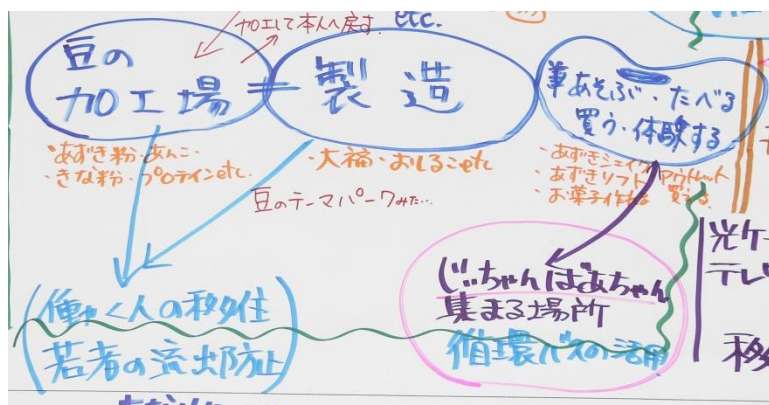


当班のプロジェクト名は『ヘルスビーンズ プロジェクト』というもの。

本別公園内の敷地を活用するという案で話をした。

『豆の加工場』『豆の製造』について

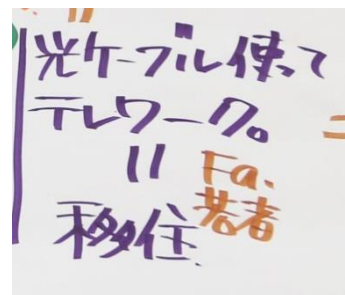
豆を中心として、たべる、あそぶ、買うを体験するというものを考えている。工場があると工場見学も出来るしお菓子作りなどの体験も出来ると。



小豆やきな粉というような製造事業にも力をいれる。「あそぶ、たべる、買うを体験」する場所で、あずきシェイクといった他にはないようなものを作る。それから豆を使ったお菓子作りなどもあった方が良いと思う。

他には、豆のテーマパークというようなものを建設するということも考えた。

最終的に働く人の移住、若者の流出が防止されることに繋がれば良いと思う。



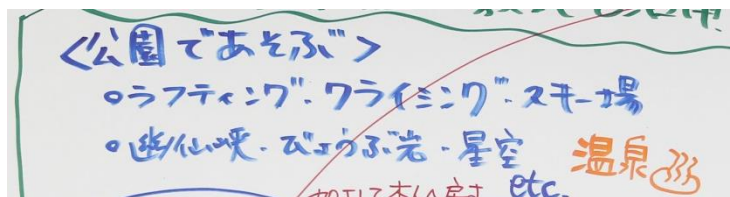
『公園であそぶ』について

ラフティング、クライミングとかスキー場、幽仙峡、びょうぶ岩、星空など普段体験できない事を体験出来るようにしたい。今は無いが、過去には温泉もあったということで、復活できたらと。

形としては、滞在型の体験施設という感じにしたい。

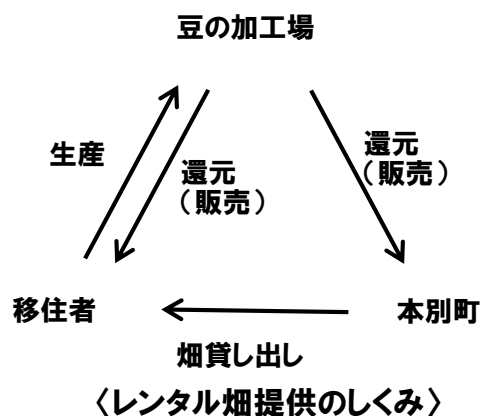
先の説明を踏まえて

滞在型の体験施設にするということなので、滞在するには、やはり泊るところが必要である。御所や空き家、シェアハウスなど安価で宿泊できるところを整備していく。そこが若者の交流や出会いの場になればいいと思う。そして、いずれは長期滞在に繋がっていったらと思う。



その他について

- 光ケーブルを使ってテレワークを推進
→短期の移住にも長期の移住にも繋がっていったらと考えている。
- レンタル畑を提供する
→移住してきた人たちに畑を貸して作物を作ってもらい、収穫したものを豆の加工場に持って行く。加工後は製造者などに還元するという体験もあったらと考えた。

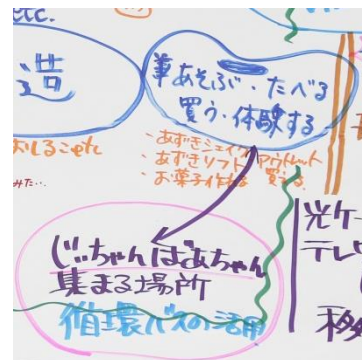


結果

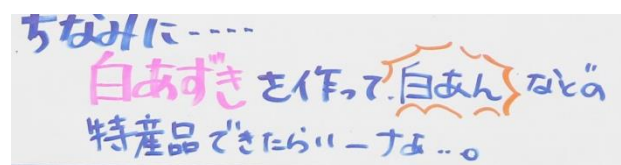
豆を中心とした企業を中心にして活気ある町をめざしていけたらと考えた。

『じいちゃん、ばあちゃんの集まる場所』について

先の「あそぶ、たべる、買うを体験する」ということで、循環バスの活用を考えている。



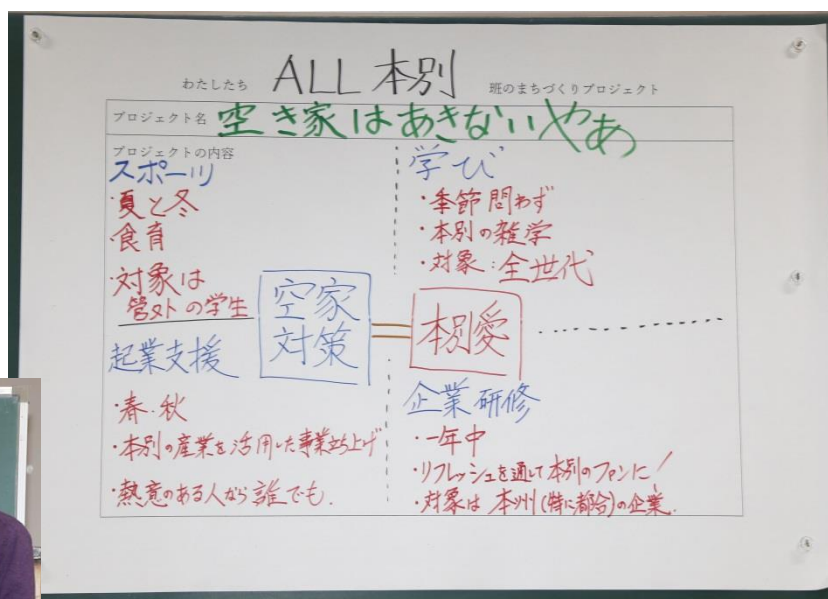
ちなみに、『白あずき』というのがある。こういうあまり世に出回っていないもの、珍しいものを育てることで特産品を増やしたりできたらいいということ考えてみた。



『ALL 本別』 班の討議発表（発表者：村上 慈恩さん）

メンバー

井出 壬午 さん
田西 真由美 さん
村上 慈恩 さん
宮内 一樹 さん

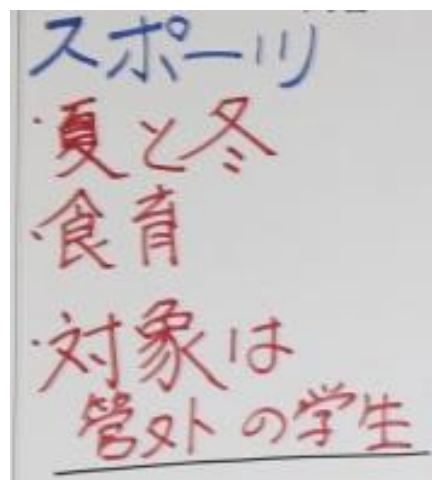


我々のプロジェクト名は、『空き家はあきないやあ』というプロジェクト名で進めている。
大きな軸として、空家対策と本別愛。この2つを軸としてどんなことが出来るのかと考えていった。

1. スポーツについて

先程も簡単に説明したが、スポーツ合宿の町にしていこうということで、空き家を上手く活用して宿泊場所にしたり研修場所にしたりする。

季節は夏と冬とする。冬は出来ない事が多いのではと思われがちだが、自分の体験談として高校時代野球部に所属していて、食べるだけの合宿、栄養学を学ぶだけの合宿というものを浦河町の研修施設で2泊3日行ったことがある。そのくらい食育とスポーツというのはかなり密接な関係にあると思う。



食育の部分については、豆のたんぱく質を含めた簡単な料理であつたりとか、管理栄養士などに依頼して「豆にはこういう栄養があるんだよ」と教えてもらう。

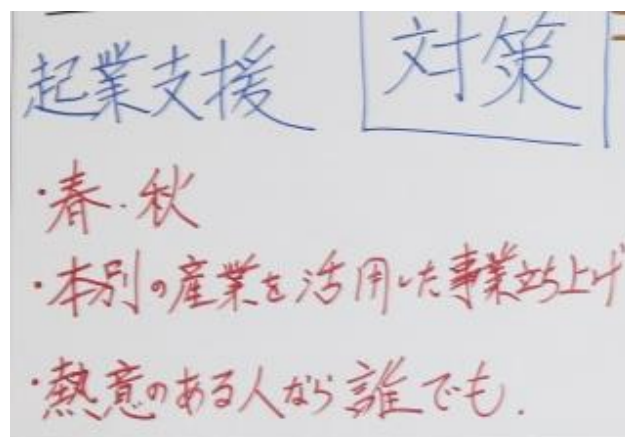
最初は管外・町外の学生を対象にして進めていけたらと思う。

本別は非常に晴れの日が多いといわれている。さらに浦幌坂というトレーニングに適した場所があつたりして、個々のスキルが成長しやすい場所なので、本別はスポーツ合宿に向いているのではないかと思う部分がある。

2.起業支援について

こちらは春と秋にした。どういうことをするのかというと、本別の産業を活用した事業を立ち上げてもらおうという部分で、町内外問わず熱意のある人なら誰でも起業できる支援をしていこうということ。

町外の人に関しては、空き家に1週間住んでもらって、本別の良いところを知ってもらい、本別はもっとここが伸びるのではないかと部分を見つけて起業できるのではないかと考えた。

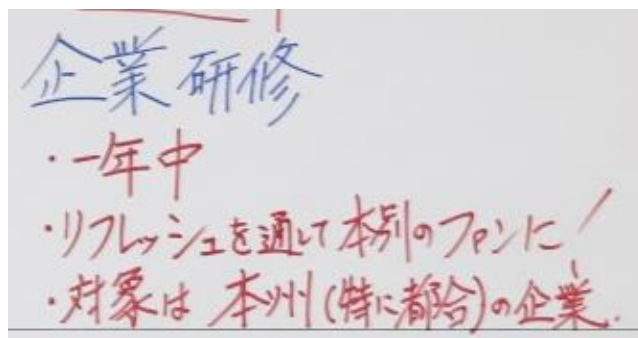


3.企業研修について

企業の方+その方の家族にも来てもらう。季節は問わず、1年中取り組めると思う。

企業の研修であつたり、企業の特化した仕事だけではなく、本別公園などの環境に触れあってみてリフレッシュするようなどころから、本別のファンになっていただきたい。

身近な人よりも本州の企業の方のほうが、より本別の良さが身に染みて分かってくるのではないかという部分で企業研修を選んだ。

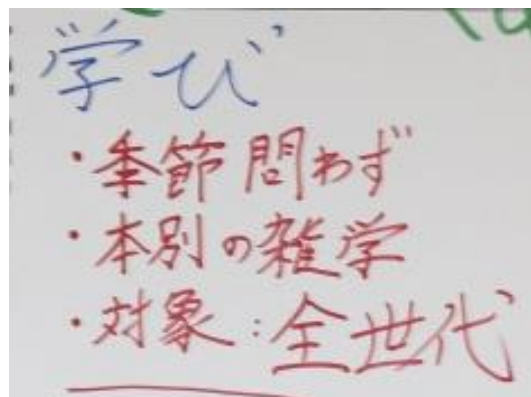


4. 学びについて

ただの勉強合宿ではなく、本別の雑学を空き家で学んでもらう。対象は全世代とし、本別町民で本別の良さを伝えられる方に講師になっていただく。

体験談として、自分は浦幌町出身で、『浦幌スタイル』というものを町で行っていた。これは浦幌のことについてもっと学んで自分で考えて発表するというもの。こういう時間が義務教育のときに非常に多かった。その中で、帯広や札幌などの都心部に負けない何かを探すことで、浦幌町民としてのプライドが非常に9年間の中で育ってきたかなということがあった。

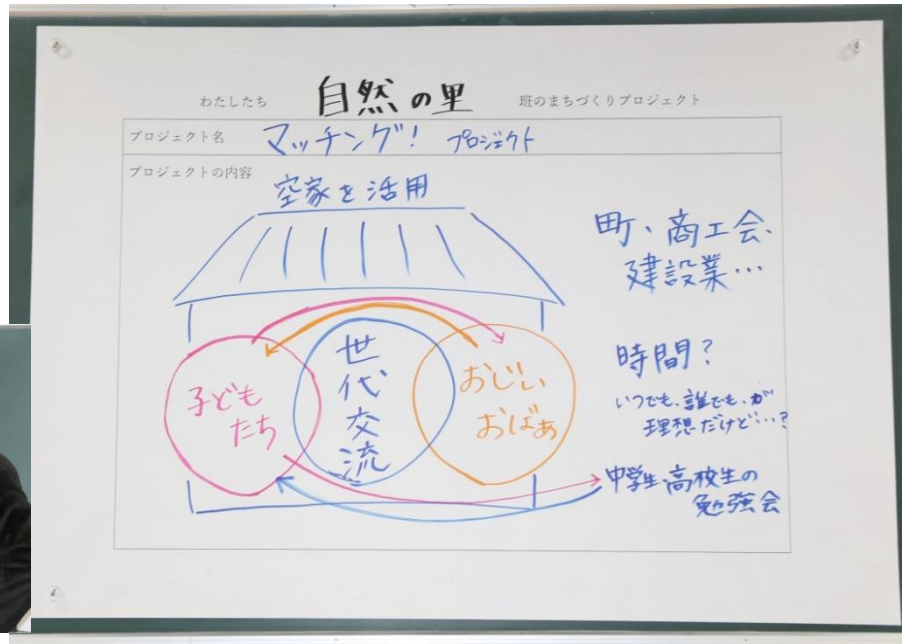
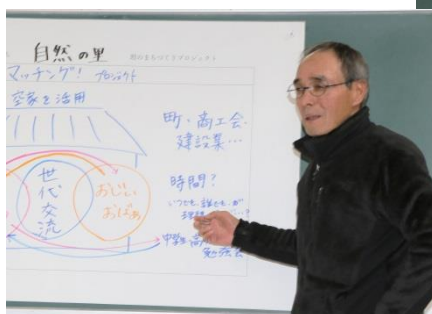
本別も上手く活用して本別のことをより知って、「本別にはこんなところがあるし、他の町には負けていないんだ」ということを学んでいただきたいということで学びを入れさせていただいた。



『自然の里』 班の討議発表（発表者：本間 正義さん）

メンバー

山下 知子 さん
本間 正義 さん
藤川 一三 さん
林 恵利那 さん

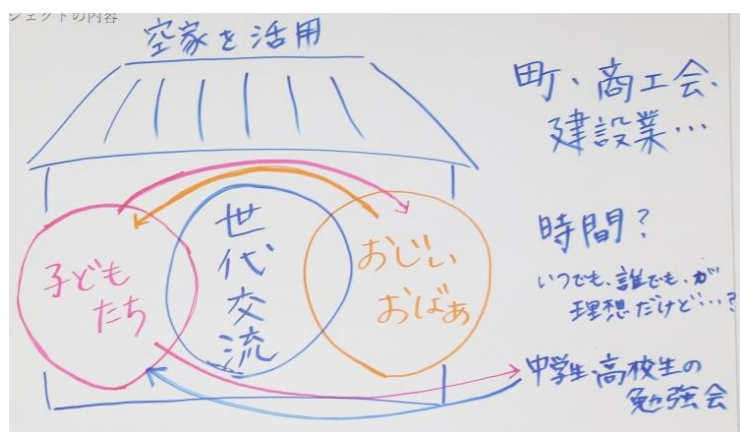


私たちの班では、やはり空き家をどうするかということを議論した。

2 回目のセミナー時にも話はしたが、空き家をマッチングさせることを基本にして話を進めていった。

町の中心地にある空き家を利用していわゆる『世代間交流』が出来るフロアを作ろうと。そこに子どもたちやおじいちゃんおばあちゃん、みんなが集える場所を提供したら良いのではないかという話になった。

さらに、そこが学生達の勉強会みたいに活用出来たり、遊びを教えたりという形で活用出来たらと。



活用例として…

おじいちゃんおばあちゃんたちは昔の遊びを知っているので、それを教える。ただ、困ったことに、お年寄りには現代の遊びを知らない。先日の会議でも話になったが、いわゆる電子機器（ゲームなど）の使い方が分からないと。そこで、この施設でおじいちゃんおばあちゃんたちは交流の一環として、子どもたちにゲームの使い方を教えてもらうということも良いのではないかと思った。

そのためには、町はもちろん、商工会、建設業界、農協などの協力をいただかないと成り立たないであろうと思う。

ただ、時間的な問題が出てくるであろうと思う。子どもたちは学校が終わった後じゃないと行けない。自分も含めて、おじいちゃんおばあちゃんたちはどちらかというと午前中の行動が多い。なので、こういった子どもとお年寄りたちの時間のマッチングが上手くいかないのではないかと。そこらへんをどうするかということが、今後の課題になるであろうと思う。

結果

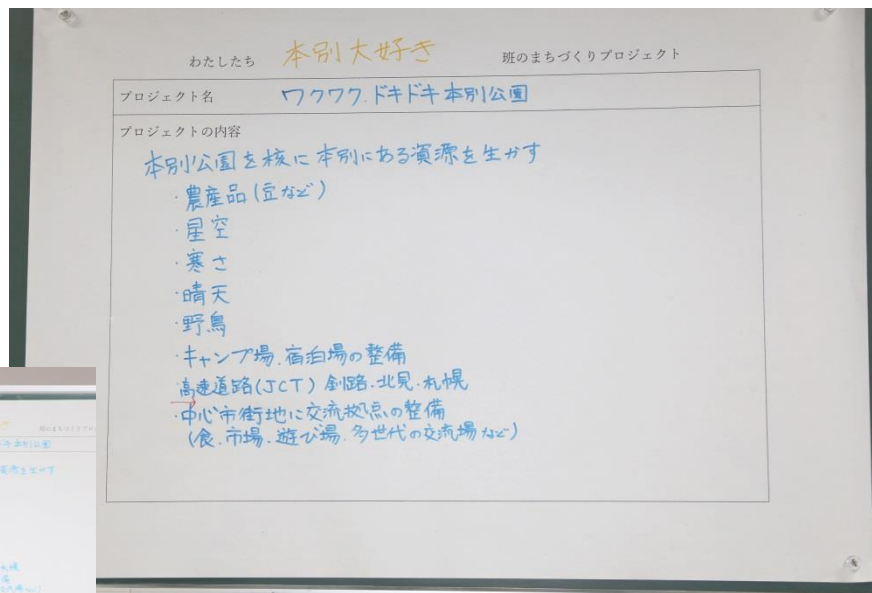
この施設ではいつでも誰でもみんなが集える場所を作りたいという話し合いだった。



『本別大好き』班の討議発表（発表者：北谷 和雄さん）

メンバー

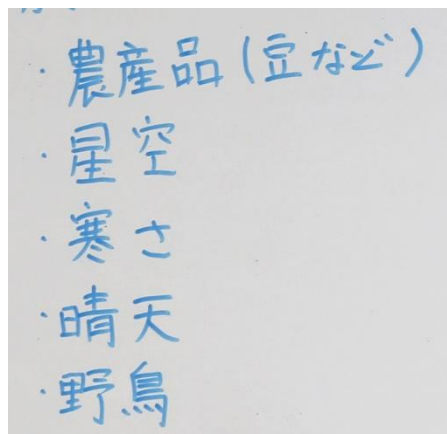
新津 直子 さん
北谷 和雄 さん
風間 進 さん
大橋 堅次 さん
栗原 浩司 さん



北谷：講師から焦点を絞って話し合いを進めていくようにとアドバイスを受け、いろいろ意見はあったが本別公園を核にして本別に合う資源を生かして、ワクワクドキできる本別を目指してみようということで話を進めた。

本別にある資源

- 豆
- 農産品（乳製品や砂糖など）
- 星空
- 気候
- 自然（野鳥など）



豆について

特産品でいえば、「日本一の豆」といっているが、豆は全国どこでも買えるのであって、現在の本別は、豆で町の名前を PR しているので、これを生かしていこうということだった。

農産品について

農産品では、明治とか北海道糖業といった農産物を加工する大企業があって、乳製品だとか砂糖だという基幹産業を持っているので、こういった農産品を生かすということもある程度考えていったら良いのではないかと。これはすぐに取り組むのではなく、後付けの話でやっていけたらいいのではないかと思った。

星空について

本別は、星空が綺麗である。町中にいると気付かなかったが、昨年 9 月に発生したブラックアウトのときに、家を出ると満天の星空が広がっていて、本当に綺麗だった。この星空が綺麗だということを生かさない手はないのではないかと。それを生かすためには、本別公園を活用してみても良いのではないかと。

寒さについて

陸別町では「しばれフェスティバル」を開催しているが、本別も陸別町に負けないくらい寒い。公園の中に寒さを経験出来るようなキャンプ場といったものを整備して、そこで滞在しているときの寒さを体験してもらうといったこともあって良いのではという話だった。

気候について

本別は晴天が多いので、安心して外に遊びに行ける。ずっと雨が降りっぱなしということは無い。

1 日雨が降っても翌日は晴れという町なので、この気候を生かしたら良い。

自然について

本別沢には、野鳥が非常に多い。少しの時間、散策するといろんなところから野鳥の声が聞こえる。こういった自然を体験してもらうのも良いのでは。

キャンプ場などの整備について

キャンプ場や宿泊所では、自分で炊事をしなければならないので、我々のようなお年寄りには少し大変に思う。1 日くらいなら何とか出来ると思うが、何日も滞在するとなると、食事はどこかに依頼したいという考えも出てくるので、宿泊所の整備をして宿泊する人が飲食できるような施設を造っていくということが必要なのではないかと思う。

・キャンプ場・宿泊場の整備

高速道路の整備について

5年10年後には高速道路が札幌や北見、釧路などから全て本別に繋がると。そうすると本別が観光の拠点ともなるし、輸送の拠点ともなる。そういう意味では本別が中心地になるといっても過言ではないのかと。これを大いに利用して、人の呼び込みをしたらどうかと。

高速道路(JCT) 釧路・北見・札幌

中心市街地に交流拠点の整備について

観光客を呼ぶということでも良いし、関係人口を増やすということで取り組んで行っても良いと思う。

ただ、短期間なら何とかなるかと思うが、長期間滞在するとなると、やはり町に出て買い物が出来たり、娯楽があるという楽しみがある町にならないといけない。ただ来て御所に泊まって滞在中は施設内に閉じこもるだけというのは飽きにくるのではないかと。飽きずに観光が出来るような拠点整備をしていってはどうか。

中心市街地に交流拠点の整備
(食・市場・遊ぶ場・多世代の交流場など)

例えば、お年寄りで居酒屋に飲みに行ったら安い料金で飲食ができたり、飲酒運転にならないように送迎タクシーのような制度があったら良い。そういうことが整備されていくと、子どもも大人も楽しめるという整備を進めていくことが大事。自分で食事を作るのもよし、施設内で飲食の提供を受けるのもよし、飲食店に行って食べるのもよしといったいろんな選択肢があって、飽きの来ないような体制をつくる必要があるのではないかと思います。

子どもの遊び場について

本別公園は子どもの遊び場に適していると思う。敷地内に交通公園があって、短い時間でも子どもをゴーカートに乗せていけば、親たちはどこか違う所に遊びに行っても良い。子どもにとって常に安心して楽しい環境を提供する。



現在も取り組んでいるが、そこではお年寄りが見守りを行いながら、ボートに乗せたり、車に乗せたりして楽しい時間を提供している。その取り組みのおかげで、公園には帯広圏

の観光客が多いと聞いている。それが、キャンプ場に来て朝から晩まで楽しく遊べるとなれば、子どもたちがまた本別公園に来たいと思える場所になるのではないかと思います。

現在の公園では、お年寄りたちが公園の管理に協力し、子どもたちの面倒を見ている。その子どもたちが来れば来るほど、お年寄りが協力する機会が増えることに繋がるのではと思う。

公園の管理全般、飲食の提供も可能ではないか。

そして、元気なお年寄りが働けば、認知症予防などの健康にも繋がっていくのではないかと思います。

課題・問題点について

一番問題にしているのが、ここには書いていないが、本別高校の生徒が卒業したら帰ってこないこと。それはなぜかという、仕事が無いから。やはり本別に職を作る、現在ある職を拡大するといういわゆる雇用人口を増やすということを考えていかないと。

講師の講評（講師：大山 慎介 氏）

大山氏：この3回を通じて、みなさんの考えが具体的になったことに、非常に感銘を受けてます。ここまで熱心なワークショップは中々見当たらないのが道内の実態です。感激しました。

是非、今回の課題認識と近未来展望という、地に足が着いたプロジェクト案、皆さんと役場が協力して実現していただきたい。

勿論、一気には難しくても、5年スパンでは実現可能なことが多いと感じています。

必要であれば、具現化に向けて、出来る限りのお手伝いもします。その上で、若干ですが、この度のセミナー3回全体を通して、また、皆さんのプロジェクト案を拝見した上での感想を付け加えたいと思います。



今日のキーワード

- 豆と健康
- 本別公園
- 町の中に目を向けると空き家
- その空き家を活用した世代交流
- 将来、本別が広域圏域における交流拠点に

前回までのセミナーで出た意見が、今回はより具体的な表現になっています。このプロセスとプロジェクト案を軸にして、町長・議会・役場とみなさんが協力して、実現していくことを信じてます。

先ず、高速道路について。将来、本別が交流拠点になっていくんだということは、非常にインパクトがあります。その場合は、道路交通網の他に、3つの空港とJR特急駅に、ほぼ1時間圏内という、道内でも傑出したアクセスになるからです。

このことは物流の他に、ご意見にもでた、企業の研修、スポーツ合宿等など、様々な大都市部との交流拡大の潜在性を秘めているということでもあります。

ポイントは、そうなってからではなく、その前に、「あの」本別町と言われるように、地道かつ効果的なPRを続け行くこと。多くの場合は、その事前のPRの途中で「直ぐに、そのPRの費用対効果は？」という議論が出て中断してしまい、結局は、いざという時に多くの経費でPRするものの効果が非常に薄いというのが現実です。

次に、豆について。町のキャラクターを活用して、リピートする度に、あるいは、ご縁が深まっていく中で、キャラクターのアニメのようなものが、小さいステータスを持つところからどんどん発展・成長して巨大化していく、いわゆる『豆モンスター』のような存在になっていく等、昔から行われている

ポイント制と町との「ご縁深化度」を組み合わせた仕組みなども一考かとも思います。

空き家について。現在町内には300程の空き家があると伺ってます。一方で、300の内、使える空き家と使えない空き家を識別しているとのこと。では、使えない空き家はどうするか？例えば、解体して出た廃材を再利用して、他のものに利用するとか、建物を完全リニューアルして再利用するとか、若しくは更地にした上での空間利用を検討する等、法的な改正や検討も進んでいますので、買い物対策、コミュニティの維持、防犯対策などを絡めたビジョンを共有すべきかと思います。

また、自然のすばらしさも随所で出ました。星空が綺麗、公園が整備されているということ等は、皆様からすれば、ごく日常的なことでしょうが、大都市部の方にとっては、「非日常」であり、その価値はビックリするくらい高いので、今後、各種交流策を進めて行く中で、心に留めておいてください。

つまり、都会の人が何に苦しんでいるのか、何に悩んでいるのか、どこに価値を見出すか等、都会の人と直に触れ合うことによって、本音の意見交換を深めること、互いの立場を理解することが今後、本別の埋もれた価値を高める上での基礎になります。この意味で、「ちょっと暮らし」は、出会う場の貴重なツールですので、ぜひ、手段としてもっと進めて戴ければと思います。

その中途・結果で、都会の人の悩みや苦しみをすることは、本別で出来ること、お役に立つこと等が浮かび上がってきますので、現在の町民、そして、中長期滞在、子育て時期にお引越して来た人などの大都会の方の、「双方が」嬉しいことになって行きますし、新たなサービス業なども求められ、結果、雇用の場の創出にも繋がります。

こうしたことを繰り返す中で、本別が取り組むべき事項、可能性が更に見えてくるでしょう。

様々な問題や課題があるかも知れませんが、極力、このセミナーで出た意見等が無駄にならないよう、実現に向けてこれからの町づくりを行っていった欲しいと思いますし、必要であれば何度でも伺います。必要でなければ、これが最後ですね（笑）。

いずれにせよ、この3回、本当にお疲れ様でした。

そして、僕自身も沢山の勉強をさせていただいたことに、改めて心から感謝申し上げます。

